

白金アートコンプレックス 5 周年合同展覧会
Shirokane Art Complex 5th Anniversary Exhibition

メメント・モリ ～愛と死を見つめて～

M e m e n t o M o r i ~ E r o s & T h a n a t o s ~

April 13 sat, 2013 - May 18 sat, 2013

拝啓 春爛漫の芸術的妄想が発情する季節となりました。皆様におかれまして益々清祥のこことお慶び申し上げます。

この度、白金アートコンプレックス(略称 SAC、1F: 児玉画廊、2F:ARATANIURANO、3F: 山本現代、4F:London Gallery、5F: 新素材研究所・榎田倫之建築設計事務所)では、4 月 13 日(土)から 5 月 18 日(土)まで、全館合同 展覧会 「メメント・モリ ～愛と死を見つめて～」を開催する運びとなりました。SAC のグランドオープンから 5 周年を記念し、現代美術から古美術にわたる多種多様な分野を扱う各フロアが、杉本博司の出した「お題」に答えるかたちで企画展示致します。問答の先に立ち現れる数々の作品は、絡み合うエロスとタナトスを魅せるにとどまらず、愛と死について、この永遠なる難題を皆様にも投げかけます。

この機会に是非本展をご高覧頂きますよう、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

敬具

児玉画廊

ARATANIURANO

山本現代

London Gallery

新素材研究所

小田原文化財団

榎田倫之建築設計事務所

会期 2013 年 4 月 13 日 (土) — 5 月 18 日 (土)

開廊時間 午前 11 時 — 午後 7 時 (日・月・祝休廊)

※ 5F (新素材研究所、小田原文化財団、榎田倫之建築設計事務所) は、土曜のみ開廊

オープニング・パーティ 4 月 13 日 (土) 19:00~21:00

・杉本誠三特製モツ煮込み with 榎田人参 (愛と死を煮詰めて) を限定数ご用意しております。

オープニング・イベント 4 月 13 日 (土) 17:00 開場 17:30~19:00

要予約 (定員 80 名・参加費 1000 円: ご予約は以下メールアドレスにて受付 memento@kodamagallery.com まで)

・シモーヌ深雪シャンソンライブ

・杉本博司による阿部定予審調書朗読と歌

本展についてのお問い合わせ

ARATANIURANO: 清水、古市

Tel:03-5422-8320 Fax:03-3444-1224 Mail:memento@arataniurano.com

108-0072 東京都港区白金3-1-15 白金アートコンプレックス2階

※個別の作家・作品につきましては各ギャラリーへお問い合わせください。

| 本展によせて |

メメント・モリ ～愛と死を見つめて～

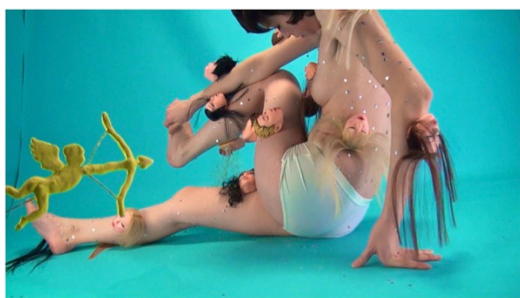
本展は森美術館開館 10 周年を記念して開催される「LOVE」展に呼応するかたちで開催される企画展です。純愛小説の古典的名作「愛と死を見つめて」は昭和 38 年に発表され、翌 39 年には吉永小百合、浜田光男主演で映画化されて日本全国を涙に濡らしました。愛を語る時、それはいつもエロスと共にあり、死と隣り合わせにありました。愛と死を見つめること、それは刹那と永遠を見つめることでもあります。本展は愛と死を見つめる作家たちを厳選して皆様にお届けいたします。なお、本展は純情表現のみに偏らず、同等の重さで劣情表現にも意を払っています。人の心はそのはざまに生きるものだからです。

窮霊汰 杉本博司

| 展覧会概要 |

<1階 児玉画廊> TEL:03-5449-1559 FAX:03-5421-7002 MAIL:info@KodamaGallery.com

大久保薫は人間の「肉体」について宗教や暴力、性を題材に描写することで、漫然たる日常に埋没し忘却の淵にある「生」を呼び覚まし、我々に突き付ける。むせ返るエロティックなイメージの渦に、その構成要素の一部として死生観までを平然と取り込みながら独特の空間を作り出す鷹取雅一。本能に直感的な映像作品で強烈なインパクトを与える高田冬彦は、壮絶なるエロスで観衆を惑わします。既存の線描をサンプリングすることによって、イメージが遺伝／繁殖するかのような連鎖性を抽象表現へと落とし込む田中秀和は、本展においてピカソの銅版画 347 シリーズ(エロチカ)からの引用を試みます。在るものを在るように捉え、思うがままにイメージを紡ぎ、それを何かしら形へと置き換えていく吉田純也の行為には、「生きるということ」を思い、同時に「死」を思う、そんなことを想起させられずにはいられません。メメント・モリ、死を記憶せよ。5 名のエロス&タナトスを重ね透かすように構成します。



高田冬彦 「LOVE EXERCISE」2013
映像, 12min. 6sec.



鷹取雅一 「無題ドローイング」
2013, 紙に鉛筆, 14.8 x 10.5 cm



吉田純也 「あめ、そらにふる」2010
木製パネルに油彩, 27.3 x 22 cm



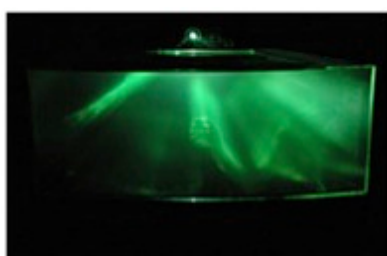
大久保薫 「無題」2013
アクリル絵具, 194 x 162 cm

<2 階 ARATANIURANO> TEL:03-5422-8320 FAX:03-3444-1224 MAIL: info@arataniurano.com

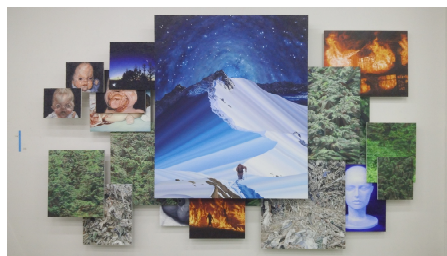
水中をゆっくりと漂う女性の姿を、微妙に濁らせた水とそれを湛えた水槽をスクリーンとして映し出されるインスタレーション、高嶺格による「水位と体内音」。重力から解放され、滑らかな水と一体となったような裸体の浮遊感と、水を使った2.5D立体画像とも言うべき奇妙な物質感が、独特の陶酔をもたらします。また、時折人体の一部だと分かる程度に抽象化された光は美しく原始的で、私たちがかつて母親の胎内にいた時の記憶を呼び覚ますようでもあります。加茂昂の複数枚のキャンバスによる巨大なペインティング「絶望と希望のあいだに道をさだめて僕は歩く」には、現実とは美しくも死と隣り合わせであるということが示唆されています。それらの作品と同時に童謡「ふるさと」と日々消費される「コンビニで売られているエロ本」を合わせた、少々アイロニカルで開放的な杉本博司の小品もお目見えします。自らを育んだ故郷・根源を思えばこそ、生と性の向こうにある死を見つめることができるのだと考えます。



杉本博司「ふるさと」
2013 © Hiroshi Sugimoto



高嶺格「水位と体内音」2004
水槽、水、プロジェクター、シングルチャンネルビデオ



加茂昂「絶望と希望のあいだに道をさだめて僕は歩く」2012
キャンバスに油彩

<3 階 山本現代> TEL&FAX: 03-6383-0626 MAIL: info@yamamotogendai.org

ヤノベケンジとビートたけしが協同し、「大地の怒り」を古井戸から立ち現れる巨大な亡霊的存在に具現化した巨大作品「アンガー・フロム・ザ・ボトム」の構想模型とエスキースを展示する一方、杉本博司作品「性電気発生装置」からは剥き出しのエロスの閃光がほとばしります。また、ビートたけしによる透明プラスチック製「スケルトン跳び箱（ノーパン跳び箱）」は、単なるエロティックな道具にとどまらず、「(1)落ちる水 (2)照明用ガス、が与えられたとせよ」で論争を巻き起こしたデュシャンにもつながる美術的価値を有し、我々の生の始点をのぞくための装置として純粋性をたたえます。



杉本博司「性電気発生装置」
2010 © Hiroshi Sugimoto



ビートたけし×ヤノベケンジ
「アンガー・フロム・ザ・ボトムのための構想模型／エスキース」2013



<4 階 London Gallery> TEL: 03-6459-3308 FAX: 03-6459-3309 MAIL: londongallery.sac@honey.ocn.ne.jp

独学で彫刻を学び無住の寺に留守居人として生活を送る橋本雅也は、近年、鹿の骨・角を用いて作品を制作しています。精緻で美しい花に変化したそれらはまさに、真摯に死を見つめた先におもう生命の儚き美しさを体現しているようです。本展では、山の頂で、息絶えた一頭の鹿との出会いから制作した新作を発表致します。古美術からは、愛欲・欲望を否定せず、これらを人間の本能として向上心に変え、菩提心に導かせる仏「愛染明王」（14 世紀）を展示致します。そして杉本博司氏のコレクション、ゴッティエ・ダゴティ「解剖図」などと共に姿かたち、時代は違えども「愛と死」に対するそれぞれの思いを汲みとって頂きたい。



「愛染明王」鎌倉～南北朝時代
(14 世紀)



橋本雅也「アマサキソウ」
鹿の骨、角、写真: 清忠之



ゴッティエ・ダゴティ
「解剖図」
杉本博司所蔵



胎藏界曼荼羅【円珍請来本系】
(12 世紀)

<5 階 新素材研究所、小田原文化財団>

映画「愛と死をみつめて」（監督：齋藤武市 原作：河野実・大島みち子）youtube 閲覧

会期中、土曜（11:00～19:00、5/4 は祝日のため休廊）のみ開場致します。

<5 階 榑田倫之建築設計事務所>

神蔵美子作品「たまゆら」より 被写体／杉本博司

作品集未発表の「バスガイドさん」を含む、「夏の日」「杉並区方南町 平成九年」など計 5 点を展示します。

会期中、土曜（11:00～19:00、5/4 は祝日のため休廊）のみ開場致します。



「夏の日」



「杉並区方南町 平成九年」